

PBLにおける学習支援について

～同志社大学プロジェクト科目

(全学設置教養教育・テーマ公募制)に即して～

- 大学の紹介
- 取組の概要
- 取組の経緯
- 今後の課題

同志社大学文学部教授

PBL推進支援センター長

山田和人

kyamada@mail.doshisha.ac.jp

大学の紹介

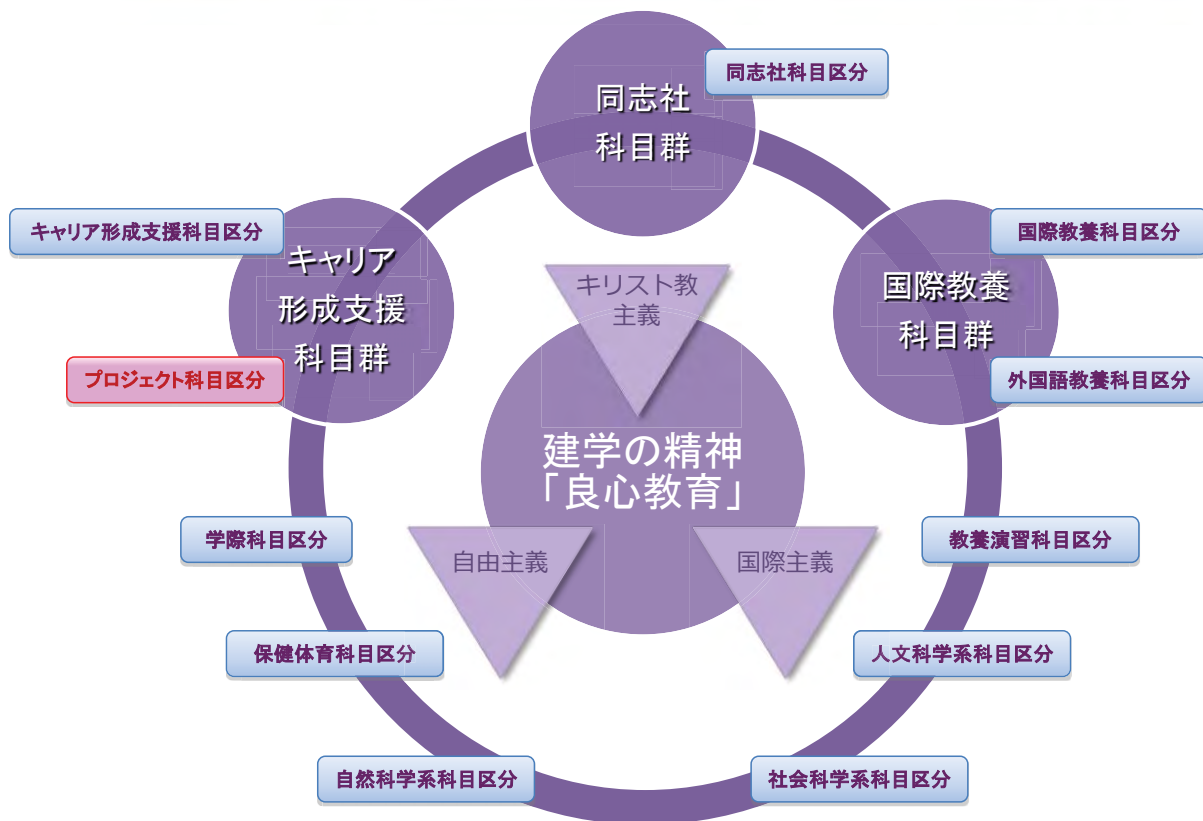
同志社大学 学部・大学院

- 学部14学部34学科
- **神学部**(神学科)・**文学部**5学科(英文学科/哲学科/美学芸術学科/文化史学科/国文学科)・**社会学部**5学科(社会学科/社会福祉学科/メディア学科/産業関係学科/教育文化学科)・**法学部**2学科(法律学科/政治学科)・**経済学部**(経済学科)・**商学部**(商学科)・**政策学部**(政策学科)・**文化情報学部**(文化情報学科)・**理工学部**10学科(インテリジェント情報工学科/情報システムデザイン学科/電気工学科/電子工学科/機械システム工学科/エネルギー機械工学科/機能分子・生命化学科/化学システム創成工学科/情報システム学科/数理システム学科)・**生命医科学部**3学科(医工学科/医情報学科/医生命システム学科)・**スポーツ健康科学部**(スポーツ健康科学科)・**心理学部**(心理学科)・**グローバルコミュニケーション学部**(グローバルコミュニケーション学科)・**グローバル地域文化学部**(グローバル地域文化学科)
- 大学院16研究科32専攻(前期)
- 神学研究科1専攻・文学研究科5専攻・社会学研究科5専攻・法学研究科3専攻・経済学研究科2専攻(前期)1専攻(後期)1専攻・商学研究科1専攻・総合政策科学研究科1専攻・文化情報学研究科1専攻・理工学研究科5専攻・生命医科学研究科2専攻・スポーツ健康科学研究科1専攻・心理学研究科1専攻・グローバルスタディーズ研究科1専攻・脳科学研究科・司法研究科(法科大学院)・ビジネス研究科

同志社大学プロジェクト科目の特徴
～社会の教育力を大学へ～

- PBL(Project-Based Learning)を導入した実践型教育
- テーマ公募制とテーマ提案者の嘱託講師採用。
- 全学共通教養教育科目としてのPBL。
- 往還型地域連携活動としてのPBL
- プロジェクト・リテラシー育成を目指すPBL。
- 現場と本物志向のチームPBL。
- 現代社会の抱える課題と正面から向き合い、考え抜く力を磨く。伝統的なテーマも現代的な課題としてとらえる。
- PBL推進支援センターによる学内外のPBLについての研究と調査とともに実践的なプログラムの開発に取り組む。

同志社大学 全学共通教養教育科目（3つの科目群） 2012年度現在



取組の概要

- 1) テーマ公募制
- 2) 教養教育PBL
- 3) 事例紹介

同志社大学プロジェクト科目テーマ公募制

1) 科目担当者(公募制)「社会の教育力を大学へ」

- ◆プロジェクトテーマを企業・団体・個人から募集。
- ◆プロジェクト科目検討部会委員(6~8名)で採択原案作成(面接実施)・教務主任連絡会議委員(約20名)にて採択と人件審議。審査も上記委員が行う。採択テーマの提案者を本学嘱託講師として委嘱。
- ◆本学専任教員が科目代表者として参加(専任教員50名関与)。
- ◆各科目に必ずSA・TAを配置(学習支援者育成)。
- ◆20科目前後が採択される。
- ◆毎年、50~60件前後の応募。採択率は35%程度。
- ◆毎週の授業担当・現地調査引率・科目行事参加。
- ◆成績評価はGPA。授業運営の手引き配布。説明会実施。
- ◆成果報告会・成果報告書提出・担当者代表者懇談会。
- ◆プロジェクト科目事務局のサポート。
- ◆提供すべきは、愛着を持てる鮮度のいい教材→学生の意欲・関心
- ◆リアルな現場よりも、教育環境としてのフィールド→地域・職場など

公募制

■ 募集対象者

設置趣旨に賛同し、本学専任教員と協力してプロジェクト科目を担当していただける企業、団体、個人。

企業、団体の場合、主たる科目担当者は**1名**。

- ※採択された場合、科目担当者1名を嘱託講師として委嘱
- ※同一テーマのプロジェクトは採択は3回が上限

社会の教育力を同志社大学へ!
あなたの提案が授業になる! 2011年度プロジェクト科目、テーマ募集!

- 社会を生き抜く智慧・技術が求められています。企業・団体・個人より募集します! (※応募資格は、募集要項の「応募資格」を必ずご確認ください。)
- プロジェクト科目とは、... 「現場」に学び、学生自身が考え、行動する授業です。大学の学内外の資源を活用してプロジェクトを推進していく科目です。
- プロジェクト科目を教員と共に担当してみませんか?
- ユニークなテーマを持っています。あなたの提案が授業になります!

募集対象者
● 企業・団体・個人
● 専任教員50名以上関与する授業
● 企業・団体の場合は、主たる科目担当者は1名
● 個人の場合は、専任教員50名以上関与する授業

科目の選考について
(1) 採択された科目は、本学の専任教員1名が科目の責任者として担当することになります。
(2) 採択された科目は、企業・団体の協力を得て実施されます。採択された科目は、面接、授業、現地調査、成果報告、授業評価などを行います。
(3) 企業・団体の協力を得る必要があります。採択された科目は、本学の専任教員が担当しますが、企業・団体の協力を得る必要があります。
(4) 採択された科目は、本学の専任教員50名以上関与する授業となります。
(5) 採択された科目は、本学の専任教員50名以上関与する授業となります。
(6) 採択された科目は、本学の専任教員50名以上関与する授業となります。

2015年度プロジェクト科目開講テーマ

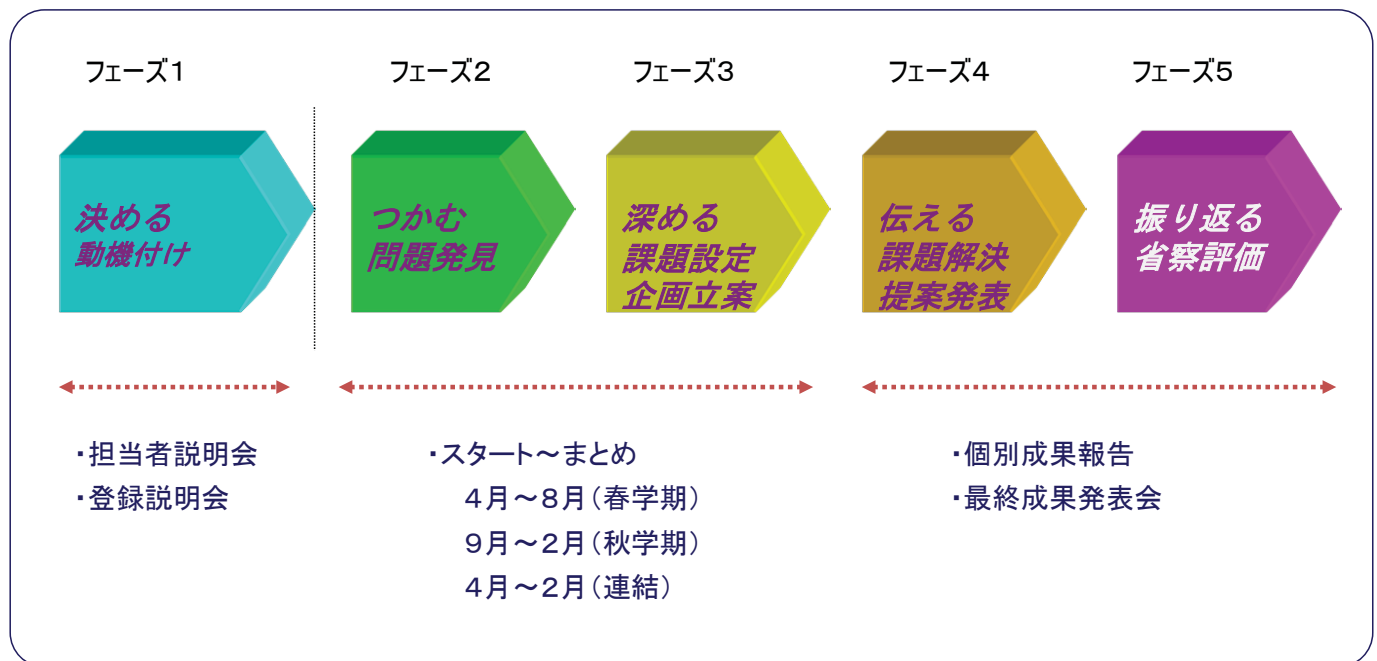
LOHASタウン実現プロジェクト	京都の伝統織物をつなぐ～織物文化ビジネスプロジェクト～
子供が遊びながら学び知る知育玩具の企画立案	災害に強い地域循環型共生コミュニティの実現
東洋医学で京田辺を健康にするプロジェクト	同大生“GLOCAL”プロジェクト ～国際協力と地域社会貢献
地域応援プロジェクト ～同志社から、スポーツの力で恩返し～	観光都市京都の新土産 ～世界に発信する新土産～
テーマパークの利用者満足度向上に関する企画立案プロジェクト	ラジオで発信-若者と高齢者の音楽イベント制作
空き店舗を活用した地域活性化Ⅱ -風が起こすムーブメント-	京都発！補助犬ガイドブック作成プロジェクト
以上京田辺校地開講科目 以下今出川校地開講科目	京都が培ってきた文化産業の素材・技術のリデザインと発信
プロスポーツの集客・チケット販売の実践で学ぶマーケティング	「大学が運営するフィットネス」の在り方と地域連携について
絵本百花～最愛の1冊に出会うプロジェクト～	コミュニティをデザインする～家から始める居場所づくり～

同志社大学プロジェクト科目教養教育PBL

2) 受講学生教養教育PBL

- ◆全学共通教養教育科目として設置。
- ◆春学期・秋学期・春秋連結の三種類の設置。
- ◆1年次生(秋学期から)～4年次生までの学部生が履修。
- ◆学部・男女比も偏りが無い。初対面からのプロジェクト。多様な価値観。
- ◆希望者は、説明会に参加し、先行登録が必要(登録志願票)。200名登録/300名志願。
- ◆1プロジェクトは、5名以上19名以下の少人数制。
- ◆超過した場合、志願票や面接などによって選考。
- ◆15回授業(授業は全体会議)・授業外学習(MTG・調査)
- ◆学生担当者説明会、リテラシー講習会、成果報告会(全科目)に出席。
- ◆活動記録・議事録・報告書・企画書など提出。
- ◆学生成果報告書、相互評価票、自己評価票(中間・最終)など提出。
- ◆1 Semester 30万円の授業運営費補助。会計担当学生。科目代表者押印。
- ◆謝礼(ゲストスピーカーなど)、文具雑品、図書費、印刷製本費、用品費など。

プロジェクト科目の5つのフェーズ



PBL(プロジェクトベースドラーニング)とは何か？

- PBLとは、プロジェクトの特性を活かした教育
- PBLの狭義の定義(プロジェクトとは何か?)
「一定期間内に、一定の目標を実現するために、自律的・主体的に、学生が自ら発見した問題に取り組み、それを解決しようと、チームで協働して取り組んでいく創造的・社会的な学び」

Case 1 - 1 同志社小学校との連携 子どものための「京都職場図鑑」作成プロジェクト (2007)



Case 1 - 2 同志社小学校との連携 子どものための「京都職場図鑑」作成プロジェクト (2007)



こんどは、金属で道具づくりをしている職人さんにお話しを聞いてみたいな。



釜ってなに?

釜は、茶道で茶をたてるために湯をわかす道具です。湯をわかすといっても、家にあるやかんや電気ポットとはちょっとちがいます。鉄でできていて、かたちもいろいろです。鎌倉時代ころからつくり続けられている長い歴史があります。中には何百年も前につくられ、今でも使える釜があるというから、おどろきですね。



釜ってどう楽しむの?

釜といっても、形や色、しつぽはさまざま。これらは「つくる人」や「使う人」の好み、時代によって変わってきます。そんな個性豊かな釜のみりを、紹介しましょう。

時代や人によって、いろんな釜がつくられているんだね



初代 大西清右衛門 (1590~1668) 五代 大西清右衛門 (1647~1716) 六代 大西清右衛門 (1689~1762) 十五代 大西清右衛門 (1824~2002)

釜についての文様だよ。何がかいてあるかわかるかな?



形

釜の形は、丸や四角だけでなく、富士山やひょうたん、ナスなど面白い形をしたものまでいろいろあります。また、よく見ると、動物や植物などの絵(文様)が書かれていたり、釜を持ち運ぶときに使う「釜提」という輪を運ぶための耳(鑿付)がついているのかわかります。鑿付も丸の形をしているものや、かのに形をしているものなどバラエティゆたかです。



はた

鉄の色や手ざわりなど、釜の「はた」から受ける印象は大切です。釜師は、はたの具合にも強いでわりを持って釜を作ります。鉄は硬いものですが、いろいろな工夫をすることでやわらかく見せることもできるのです。また、わざと表面をでこぼこにしたり、さびたようにして味わいを出すこともあります。



鉄

釜の材料である鉄は表面からさびていく持ちようがあります。しかし、釜はさびることで味わいやおもしろさが出てきます。なので、釜師は最初から釜がさびて変化していくことを考えてつくります。つくられてから何百年も後になっても、味わって使うことができるんです。

Trivia ートリビアー

釜をつくる古い方法のひとつに「挽き中子」という技術があります。長い間途絶えていましたが、16代目清右衛門さんは研究とチャレンジをかさね、この幻の技をよみがえらせた。「挽き中子」を活用することで、うすく軽い釜を作ることができるんだそうです。



Case 2 京都市立朱雀第二小学校・同志社小学校との連携
演劇で子ども達と学ぶ 企画実践プロジェクト (2008・2009)



取組の経緯

プロジェクト科目サイト
<http://pbs.doshisha.ac.jp>

PBL推進支援センターサイト
<http://ppsc.doshisha.ac.jp>

プロジェクト科目設置の背景

■ 課題発見・探究能力の不足

- 情報処理能力は高いが問題発見・解決能力が弱い。
- テクニック・ノウハウの修得は長けているが未知・未決の問題を考える能力が弱い。
- 総じて、チャート無き事柄を自分で考え抜く力に欠けている。

■ 新しい教育／学習への展開 → P B L

- 自律的主体的学習・チーム学習・アクティブな学び

■ 往還型地域連携

- 「社会の教育力を大学へ」

■ 成功（失敗）体験・現場体験＝現場に学ぶ視点

- プロジェクトの現場（グループワーク等）＝社会の縮図

同志社大学プロジェクト科目の沿革

- 2003年9月 ■ ローム記念館完成（京田辺キャンパス）
 2004年 ■ ローム記念館プロジェクト（課外）開設
 2004年 ■ 現代G P 「プロジェクト主義教育による人材育成」採択
 2004年 ■ 文学部プロジェクト科目を新設

- 2006年 ■ 全学共通教養教育科目の整備・プロジェクト科目（正課）を新設
 2006年 ■ 現代G P 「公募制のプロジェクト科目による地域活性化」採択

★ P B L 研究会の発足

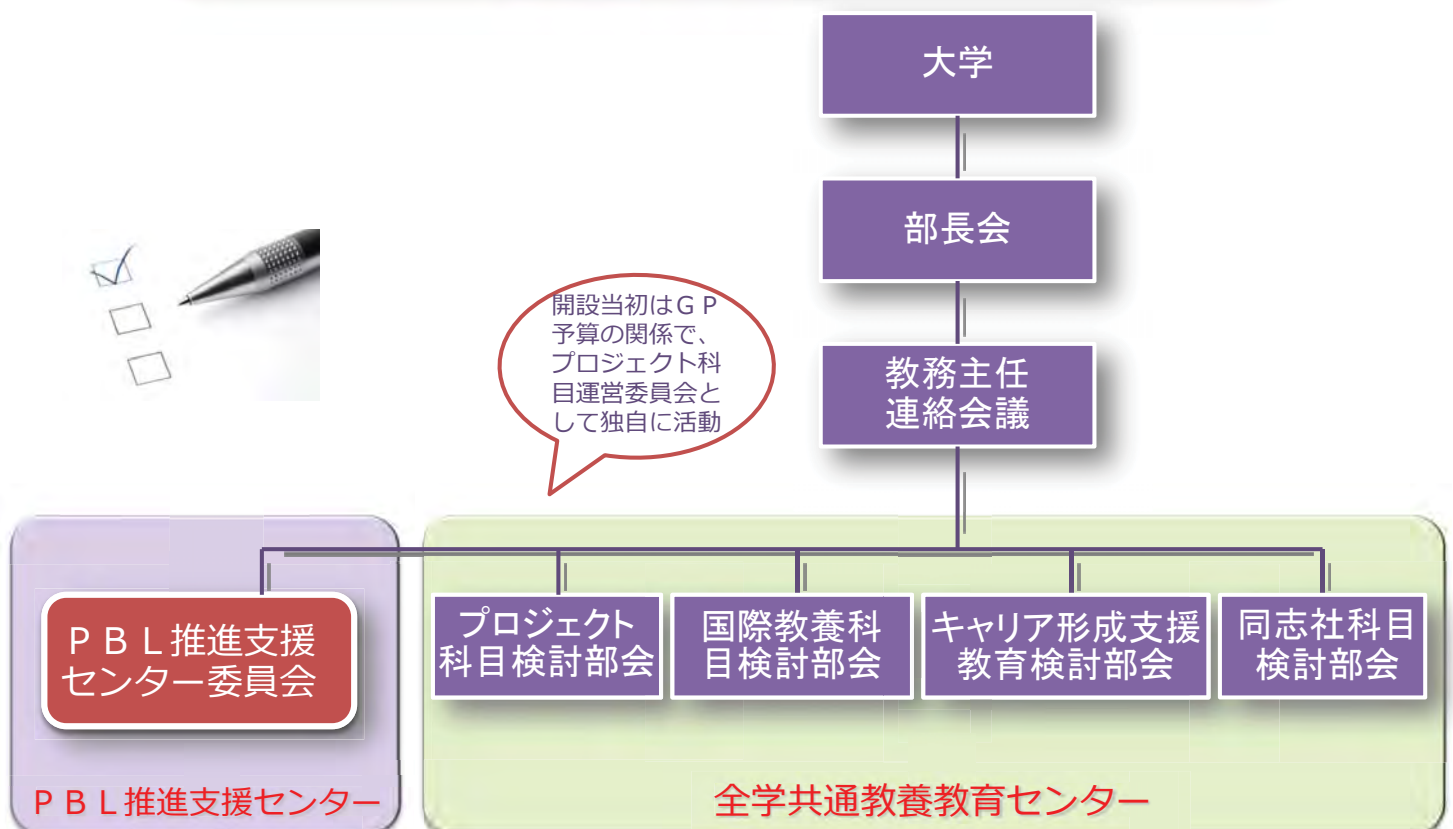
- 2009年 ■ プロジェクト科目をキャリア形成支援科目群に再編
 2009年 ■ 大学教育推進プログラム
 「プロジェクト・リテラシーと新しい教養教育」採択
 2009年11月 ■ P B L 推進支援センター設置
 ★ P B L 推進協議会の発足

PBL開設・運営のポイント

立ち上げ編

- 管理職(副学長・学部長)の役割
- プログラムの強力な推進者と数人の協力者
- 学内教員が業務として参加できる仕組み作り(次頁組織図)
プロジェクト科目検討部会・教務主任会
- 教職連携(「社会の教育力を大学へ」)2006年度24科目
1~3名(教務係長兼任1+契約職員1+アルバイト職員1)
- どこに設置するか
学部・大学院、専門科目・教養教育科目、必修・選択、学年など
学部・学科・教務課・研究科・学生支援課・キャリアセンターなど
- カリキュラムと評価の弾力化
- 改組・カリキュラム再編がチャンス！短所と長所を知る！

取組・運営方針の審議・決定



PBL開設・運営のポイント

いつでも編

- 運営委員会の組織化(ヘルプ部隊・サポート部隊)
 - 緊急即時対応→危機対応も含む
- 評価の方法・評価結果の共有・評価観の見直し
 - 科目担当者・代表者懇談会の開催・PBL推進協議会での事例報告
- 業務のルーティン化(次頁年間スケジュール)
 - 次のステップの共有
- 学習支援者の育成→SATA協議会
- 業務の効率化
 - 立ち話・道端会議の勧め、最長1時間以内の会議、身軽が一番！
- 日々FD・SDへ
 - 学生の学びに立ち会う→授業担当・業務担当

事務局年間スケジュール 2013年度

年月	2013年度プロジェクト科目関連	2014年度 公募に関するスケジュール	2013年度 PBL推進支援センター関連
2013年3月	3/30 先行登録説明会		
4月	4/5 SA/TA協議会 4/8 春学期 授業開始(プロジェクト活動)		
5月	5/9・10 学生担当者説明会		
7月	7/8 春学期 学生懇談会 7/22 春学期 SA/TA懇談会 7/28 春学期 成果報告会(京田辺キャンパス)		7/1 第1回プロジェクト・リテラシー講習会 「伝える技術について～ポスターセッション～」 7/20 第1回PBL推進協議会 「PBL型教育における学生支援を考える」
8月	8/3 春学期 科目担当者・代表者懇談会	8/3 2014年度プロジェクト科目 公募説明会	
9月	9/25 秋学期 授業開始(プロジェクト活動)		
10月			10/26 PBL教育フォーラム2013 「PBL型教育における学習効果の検証 ～卒業後の現場から～」
11月			11/29 第2回PBL推進協議会(九州産業大学) 「PBLにおける地域連携のかたち ～域連携型プロジェクトの課題を考える～」
12月		12/14 2014年度プロジェクト科目 科目担当者・科目代表者説明会	12/16 第2回プロジェクト・リテラシー講習会 「表現する技術について～プレゼンテーション～」
2014年1月	1/15 秋学期 学生懇談会 1/17 秋学期 SA/TA懇談会		
1月	1/19 秋学期 成果報告会(今出川キャンパス)		
2月			2/21 第3回PBL推進協議会(東京オフィス) 「PBLにおける地域連携のかたち ～域連携型プロジェクトの課題を考える～」
3月	3/1 秋学期 科目担当者・代表者懇談会		

取組の課題

今後の課題と展望

- 公募数の一定数確保の方策検討
- 公募の審査体制の見直し
- 予算の支出費目の見直し
- SATA協議会の充実
- 担当者代表者懇談会の充実
- 迅速な学習支援の仕組み検討
- 評価のあり方・評価方法についての継続的検討
- 学習支援ツールATSS(アクティブ・シンキング・サポート・システム)の試行開始

プロジェクト学習の五段階＝発想着想(ひらめく)→問題発見(きづく)→課題設定(さだめる)→課題解決(きわめる)→省察評価(ふりかえる)

活動記録・議事録・企画書・各種申請書類など、データバンク機能。情報共有と時間管理。